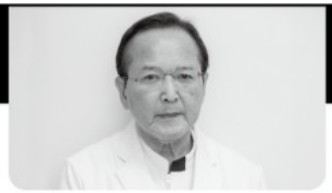
企画制作／北海道新聞社営業局 広告
広告のお問合せ・お申し込みは
㈱弘報案内広告社 ☎011-231-7777

健康と医療コラム いきいきゼミナール

花粉-食物アレルギー症候群と食物依存性運動誘発アナフィラキシー

医療法人社団 大道内科・呼吸器科クリニック 大道 光秀 院長



花粉-食物アレルギー症候群について教えてください

食物アレルギーの中でも、近年急増しているのが「花粉-食物アレルギー症候群（PFAS）」です。花粉症のある人が特定の果物や野菜を食べたときに、喉がイガイガしたり、口の中がかゆくなったりする病気です。多くの場合は軽い症状で済みますが、まれに呼吸困難など全身性の激しいアレルギー症状（アナフィラキシー）を起こします。

PFASは、花粉と食物に含まれるアレルギー物質の構造が似ていることによる「交差反応」が原因です。北海道の花粉症は春先がシラカバやハンノキ、夏はイネ科の牧草などが主な原因となりますが、シラカバ・ハンノキ花粉症の人はリンゴ、モモ、サクランボ、イネ科花粉症の人はトマト、スイカ、メロン、オレンジと交差反応して症状が現れるケースがよくみられます。

PFASの診断は、まず花粉症の検査を行い、次に血液検査で果物に対するアレルギー検査を実施します。近年では、検査精度を高めた新しいアレルギー検査法（アレルゲンコンポーネント検査）も普及しつつあります。食べ物というのは、たんぱく質や脂肪などいろいろな物質の混合物です。その中で、本当にアレルギーを引き起こしているのはどの物質であるのかが、この検査により正確に見極められるようになってきています。

食物依存性運動誘発アナフィラキシーについて教えてください

特定の食物を摂取した後に運動することによって、全身のじんましん、呼吸困難や意識障害などの全身性のアレルギー症状が誘発される病気が「食物依存性運動誘発アナフィラキシー（FDEIA）」です。原因となる食物は小麦が最も多く、次いでエビなどの甲殻類で、最近では果物も増えています。食べた後、多くは2時間以内に運動することで、急激に強いアレルギー症状が現れます。特に15歳前後に多く、小学校高学年から高校生にかけて発症することが多いです。特徴的なのは、何度も繰り返すことがある点です。発症の原因は、明確に分かっていません。

FDEIAと診断されたら予防が重要です。運動前には原因となる食品を食べないこと、食べたら最低2時間は運動を控えることなどを心掛けてください。

食物アレルギーは、間違った知識で対応すると、命にかかわることもあります。PFASやFDEIAの正しい診断と検査、治療についてはアレルギー専門医に相談することをお勧めします。

病院訪問
医療法人社団
大道内科・呼吸器科クリニック

喘息（ぜんそく）、肺炎、サルコイドーシス、肺気腫、花粉症などのアレルギー性疾患などの呼吸器疾患を専門とするクリニック。風邪、せき、たん、他の内科、特定疾患にも対応しています。ヘリカルCTや気管支鏡検査など、呼吸器専門の設備があります。





住所／札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命札幌ビル3階
電話番号／011-233-8111
診療受付／月・火・木・金曜 9:00～12:30 14:00～18:00
水・土曜 9:00～12:30
※新規の患者さんの受付は午前は11時30分まで、午後は17時まで。
※土曜完全予約制（ただし、原則として予約優先とはなりますが、直接ご来院頂いた場合も診療受付致します。）
休診日／日曜・祝日
https://www.ohmichi.or.jp/index.php
院長/大道光秀 副院長/北田順也 医師/新沼ゆかり